



JSAでなければ経験できないこと

茨城支部・農研機構／昆虫生理学 小滝豊美

私はつくばの農業関係の独立行政法人に勤務しています。職場の分会のメンバーは皆、農業関連の研究者です。また所属する専門学会で出会うのは、皆同じ分野の研究者です。しかし、JSA の様々な活動を通じて出会う人は、そうではありません。職場や専門学会では決して出会えない人文科学・社会科学を専門にする研究者に出会えます。時には、JSA が参加する市民運動に携わる人たちとも出会えます。これこそ、JSA の会員であることの「役得」でしょう。これは自身の認識の幅を上げ、日常の暮らしの中で起きていることを理解する助けになります。将来的には、こうしたつながりを元に、専門性を生かしつつ社会問題に対して関わることができるのではないかと思います。こうした「役得」は、総学や会合に参加しなければ得られないのでしょうか。そうではありません。JSA が毎月発行する機関誌「日本の科学者」には時宜を得た論文や記事が掲載されます。

この機関誌を通じて、異分野の研究者の知識や発想を吸収することができます。